

法令は負担に思わず味方につける！ ドライバーに働きやすさを提供するITとは？

千葉県匝瑳市・運送業 菱木運送の場合

在庫は抑え必要なときに必要なだけ仕入れる。顧客の要望にはできるだけ早く応える。IT時代に求められる経営のスピード感はますます上昇している。

ただ情報が瞬時に世界を駆け巡っても、商品という「モノ」は瞬時には移動しない。企業がスピード化を図るほどに物流への要望は高くなり、運送会社は対応を求められる。



代表取締役社長 菱木博一氏

顧客の要望を汲み 経営を成り立たせる配車

「お客様のビジネス状況から配送日や内容の確定が以前に比べ遅くなってきており、現在は前日の正午まで受け付けています。さらに荷積み・荷降ろしをお客様の営業時間内に終わらせるよう調整も必要です」

千葉県で運送業を営む菱木運送の菱木博一社長は、業界の状況をもとに説明する。

同社は50台のトラックを所有し、取引先の依頼に応じて指定先への運送を行っている。ルートは絞られているものの、いつ、どのくらい、どこへ運ぶかが判明するのは直前だ。決定してから配車に取り掛かるのでは間に合わないこともある。かといってトラックの準備

台数が多すぎるとは経営が成り立たない。

そこで菱木社長は、顧客や配送先の情報から需要を予測し、事前に受注の見当をつけている。さらに荷降ろし後、トラックが近隣の荷受先に寄るなど、帰りの空車回送を減らす工夫もしているという。こうした経営手腕で、先代から経営を引き継いだ10年前に比べ、売上高は倍になった。

厳しく難しい労働時間管理 リスクにどう対処するか

しかし、トラック運送にはもう一つ、業界ならではの難題があった。ドライバーの労働時間管理である。「一刻も早く荷物を届ける」使命感やコスト要求から、現場のドライバーはつい無理をして過酷な勤務状況に陥りやすい。これが、事

会社概要
菱木運送株式会社

本社：千葉県匝瑳市小高208
営業所：千葉県八街市八街127-3
設立：1971年
従業員数：58名
事業内容：運送業
URL：http://www.hishiki-unso.co.jp/

保有するトラックは50台にのぼる



定められているなど、複雑だ。

一人で仕事をしているドライバーに「法令に従うと次はいつ、どれくらい休憩すればよいか」を正確に把握してもらうのは至難の技。あらかじめ指導は受けていても気づかないうちに規定の運転時間を超過してしまうこともある。同社もわずか1分の違いで違反を指摘された経験があった。

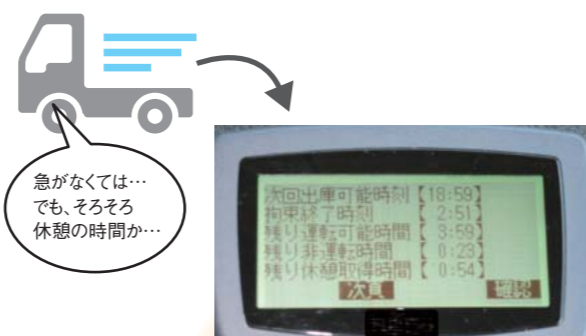
守る大切さはわかるが、徹底する方法が見出せないジレンマ。

菱木社長は悩んだ末、「本音も建前もなく法令は守る。ドライバーに責任を転嫁することなく負担をできるだけ減らす環境づくりをする」と腹をくくった。

運転時間と法令を照らし合わせ 車載器からお知らせを出す

考え付いたのは運転記録のための車載器「デジタルタコグラフ」(デジタコ)にソフトを組み込み、法令基準を守るための案内を表示することだった。

運転時間の経過に応じて、必要な休憩時間はあと何分か、業務終了時には、次の出庫可能な時刻は

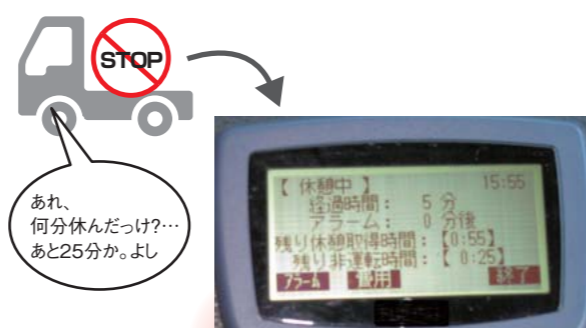


デジタコに組み込んだソフトによる運転ガイド例。現在の運転時間状況をドライバー自身が知りたい時に確認できる

何時かなどが法令に則って計算され自動表示される。ドライバーはこれを見て、自分の運転スケジュールを調整すれば法令が守れるというわけだ。

「違反したときに警告するのではなく、こうしたら守れると情報提供する」(菱木社長)のが最大の特徴だ。今までにない発想にメーカーが手間取ったこともあり、構築に4年の歳月を要したが、2010年、ついに完成をみた(特許を取得)。

導入後の一番の変化は、事故がほぼゼロになったこと。「法令を守ることと安全運転が実現できたのです。ドライバーが



休憩時間は残り時間をひと目で把握できる

早く走ろうと焦らなくなった結果、運転の効率が上がりました。本部の運行管理業務が軽減され、互いがストレスを感じるようなやり取りがなくなったのも大きい

と菱木社長は笑顔で語る。ドライバーが自分の時間を持っているようになり、労働環境の整っている運送会社として求人面でも効果があった。また、デジタコの記録からスピードや運転方法を守っている従業員には手当を支給するなど、モチベーションが上がる仕組みづくりも行っている。

事故や営業停止の不安の前で、一番リスクが少ないのは法令を守るためのIT活用」は菱木運送の企業価値を向上させた。

*菱木運送は厚生労働省の「平成23年度高年齢者雇用開発コンテスト」で厚生労働大臣表彰優秀賞を受賞しました。

推薦者からのコメント



ITコーディネータ
株式会社浅井コンサルティングオフィス
浅井鉄夫氏

菱木運送に丁寧なヒヤリングを行い、中小企業IT経営力大賞への応募支援を行ったのが浅井鉄夫氏である。NPOちば経営応援隊の理事長を務め、千葉県を拠点に、企業へのコンサルティングを展開している。勤務時間に関する複雑な法令運用をどう守るかの課題を、菱木社長はデジタコへのソフトウェア組み込みで解決した。このプロセスを、浅井氏は「運送会社は日報処理の機械化、つまり結果の管理までは行っているが、安全・法令遵守運転を事前に支援するための活用は新しい発想」と高く評価している。

今後はまず、このシステムを同業他社に広く普及し、業界の課題を解決することが求められるという。「基幹業務など社内のIT活用にはまだ余地があるので、順を追って支援していきたい」と話している。